

村のようす

(50年12月1日現在)

世帯数 1,444戸(+1)
人口 7,257人(+5)
男 3,557人(+1)
女 3,700人(+4)
面積 46.62^{km}₂

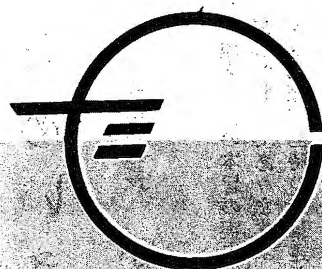
広報 たまかわ

編集・発行

福島県石川郡
玉川村役場企画課

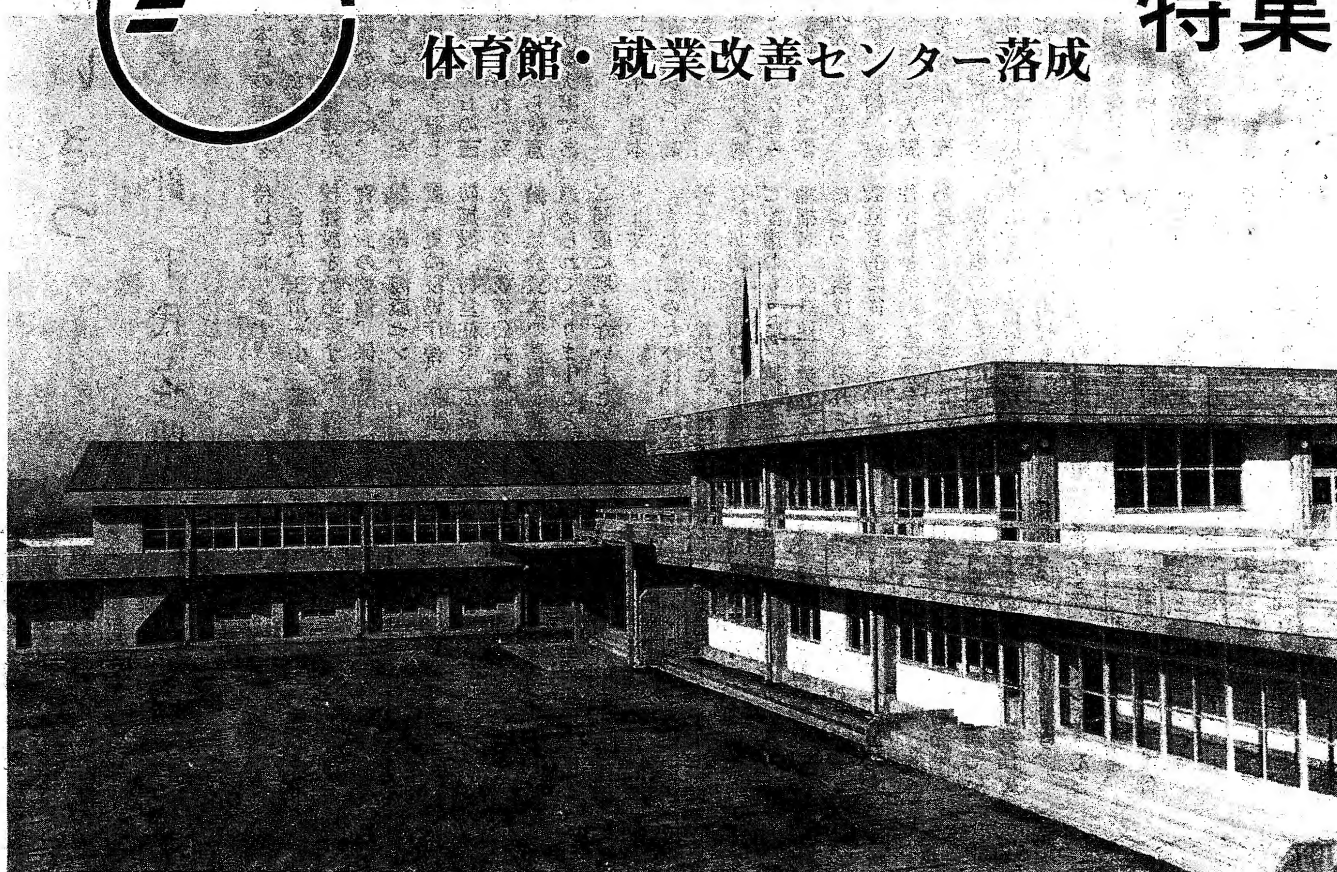
印刷所

須賀川市加治町8-6
(株)円谷印刷



合併20周年記念特集

体育館・就業改善センター落成



式典

とき

昭和五十年十二月十日

ところ

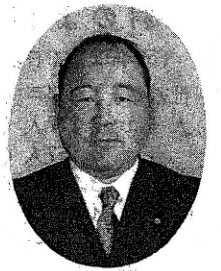
玉川村体育館

「昭和三十年三月三十一日石川郡泉村及び須釜村を廃し、その区域をもって玉川村とする。」この時我が玉川村が誕生し新しい時代に迎かって出発した。

当時の村民各位、そして直接その任にあたられた合併促進協議会各位のご努力が窺い知れます。

村名は、旧須釜村から旧泉村に流れる玉川の名に因み又、泉と須釜が合併して川になると言うことで「玉川村」と決定された当時の記録に残っている。

農村文化水準の向上と生活の安定を計るべく基本方針のもとに、玉川村建設計画も樹立され、新玉川村の躍進が始められて二十年、村民の一致協力によるめざましい村勢の発展が現在も続けられている。



ごあいさつ

玉川村長 小針 千代之助

豊穰の秋もようやく過ぎて冬の訪れを待つこの頃となりました。各位には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私達の玉川村も、昭和三十年三月三十一日、それぞれの歴史と伝統をもつ、旧泉村及び須釜村の二ヶ村が、町村合併促進法に基づいて新しく発足して、今年で満二十年を経過し、成人の齢に達しました。

また、村民の待望して久しかった産業教育、社会教育の場であり、スポーツ、レクリエーションの場である、就業改善センター及び村民体育館がこの程竣工いたしましたので、これを記念して祝意を表するとともに、将来への発展と創造を願って、ささやかなお祝いの式典を挙げることにいたしました。

新しい玉川村の誕生は、即ち歴史的、地理的に密接な関係があり、政治的にも、経済的にも共通の課題をもっている二つの村が、合併することによって、行財政規模を拡大し、その組織及び運営を合理的、且つ、能率的にし、住民福祉の積極的な増進をはか

り、地方自治の本旨の実現を企図したものであります。

顧みれば、当時の先輩達が相互の理解と協調のもとに、新しい郷土建設のビジョンを掲げ、困難な諸問題を克服して合併を成功させ、今日の玉川村発展の基礎を造られた努力と功績に対し、心から敬意と感謝の誠を捧げる次第であります。

以来、ここに二十年、日本の民主主義の充実発展と、高度経済成長に象徴される、いわゆる激動と変革の時代に対応して、「明るく豊かな住みよい村づくり」を村政の指標として、地域開発の促進と、住みよい生活環境の整備、豊かな産業の振興、新しい人間像をつくる教育と文化の充実、きめこまかい福祉行政の推進等の地域課題の実現に努力して参りました。

その結果、道路・河川・橋梁・交通・通信網の整備拡充が進められ、土地基盤整備、基幹作目の近代化等の産業振興諸施策が、農村工業の導入と相俟って成果をあげ、特に国営母畑開発事業の導入は、本村農業の体質改善に大きい貢献をもたらすであろうと期

待しております。

また、玉川一小、須釜小学校建設を始めとする、義務教育施設の整備、保育所、児童館、母子健康センターの設置、更に役場庁舎、衛生、消防施設、村営住宅、広域簡易水道の完成等公共施設の整備、社会資本の蓄積が着実に進められておりますことは、ご同慶に堪えないところであります。

また、このたびは、就業改善センター、並びに、村民体育館が関係機関のご指導と、ご配慮のもとに、建設委員、地権者、設計建設業者の協力によって落成し、それぞれの設置目的に従って活用され、住民福祉の向上に寄与するであらうと信じます。この機会に関係者の皆さんに厚く御礼申し上げます。

私達の玉川村も、このように二十年の歴史の道程の中で、いまだ解決し得ない課題をもちながらも、行財政能力を踏まえて、地域住民の要請と期待に応え、各種の事業を達成して、豊かな未来をめざす着実な歩みを続けて来たのだと思います。

ん全体の信頼と協調に基づいた郷土愛と努力の結晶であり、更にそれぞれの時期に、それぞれの位置にあって、玉川村の建設にご貢献を賜った多くの人々の功績であったと思います。

私は、これらの人々の功績を讃え、この記念すべき式典にあたり、表彰を行い心から感謝申し上げますと同時に、更に変らないご指導とご協力を賜りますようお願いいたします。

歴史は人間の幸福の追求のための社会の変革と創造であり、進歩への道程でなければなりません。今までの二十年の歩みにつながるこれからの未来は、価値観の多様化、経済体質の見直し等の中にあつて、経済の不況、地方財政の硬直化の問題をかかえ、しかも、増大する財政需要に対応して行かなければならない厳しい時代となることが予想されます。

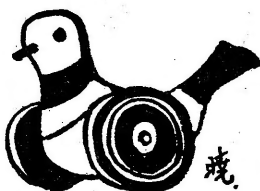
私達は、この玉川村発足二十周年を契機にして、新しい時代を創造する自覚と責任を痛感する次第であります。

希わくは、村民の皆さんとともに、玉川村の未来像と、その実現手段を再び討議に付し、信頼と協調の絆をいよいよ堅くして、豊かな住みよい地域社会の建設に、共同の努力を絶え間なく続けることを誓いあつてごあいさついたします。

玉川村の世帯と人口の推移

10月1日現在

年 別 (昭和)	世 帯 数	人 口			一 世 帯 当り人口	1平方町 当り人口	増 減 人	人口指数
		総 数	男	女				
30年	1,417戸	8,941人	4,376人	4,565人	6.3人	191.7人		100.0
35年	1,428	8,556	4,176	4,380	6.0	183.4	△ 385	95.7
40年	1,435	8,021	3,897	4,124	5.6	171.4	△ 535	87.7
45年	1,435	7,480	3,626	3,854	5.2	160.4	△ 541	83.6
50年	1,444	7,248	3,552	3,696	5.0	155.5	△ 232	81.1



玉川村20年のあゆみ

年 月	内 容	年 月	内 容
30. 3. 31	旧泉村、須釜村合併玉川村発足	46. 3~ 50. 3	須賀川～石川線改良舗装工事実施
31. 1~ 47. 10	失業対策事業実施（県村道改良工事）	46. 3	玉川第一小学校屋体完成
33. 3	泉中学校屋体完成	46. 4	共同稚蚕飼育所建設完成
34. 3	須釜中学校屋体完成	47. 2	矢吹町と一部境界変更
	村道川辺～吉線改良工事	47. 3	西部共同調理場完成 4月開所
～	◇ 奥平～小柳作線改良（一部舗装）工事	◇	須釜小学校建設用地造成工事完了
	◇ 六反田～的場線改良工事	47. 4	村道中～開山線改良舗装工事
	◇ 東関～中ノ内線改良工事	◇	◇ 岩法寺線改良工事
42. 3	◇ 南畷～掛金線改良工事	48. 3	◇ 山ノ神線改良工事
34. 6	水郡線川辺沖駅建設	47. 8	須釜小学校建設工事着工
35. 3	玉川村公営住宅20戸完成	◇	泉小中学校プール完成
35. 4	千五沢ダム建設調査開始 水没戸数23移転	◇	玉川村広域簡易水道事業着工
36. 3	泉中学校舎増築完成	47. 10	郡山地方広域市町村圏指定
37. 4~ 39. 3	広域農業事業実施	48. 3	村振興計画策定
38. 3	玉川村母子健康センター完成 4月開所	48. 4	須賀川地方広域消防組合加入
◇	泉、須釜中学校技術室完成	48. 10	農村工業導入地域指定
39. 7	村誘致の福島双羽電機KK工場操業開始	◇	母畑開拓パイロット事業第9工区着工
40. 3	役場新庁舎完成、新庁舎に移転	◇	須釜小学校屋体工事着工
40. 4	国土調査事業（地籍調査）開始	49. 3	玉川村広域簡易水道事業完了
41. 1	鏡石町と一部境界変更	◇	須釜小学校舎、屋体完成、新校舎に移転
41. 3	須釜児童館完成 4月1日開所	◇	国道118号線改良舗装工事完了開通
41. 4~ 43. 3	農業構造改善事業実施	◇	川ノ目橋建設工事完成
41. 12	東部共同調理場完成 42年2月開所	◇	消火栓設置100か所
42. 3	玉川村公営住宅蔵岡団地 10戸完成	49. 4	村道、沢小屋～石山線改良舗装工事
43. 2	有線放送施設電話開通	◇	◇ 中畷～池ノ入線 ◇
43. 4	石川地方生活環境施設組合加入	◇	◇ 川辺1号線 ◇
43. 5	玉川第一小学校用地取得第1期工事着工	◇	◇ 兎田～坂ノ下線改良工事
44. 3	共同桑園造成工事45年3月完了	50. 3	◇ 中～向線改良舗装工事
◇	玉城橋完成	49. 5	玉川村広域簡易水道給水開始
45. 3	玉川第一小学校第2期工事完成、 新校舎へ移転	49. 8	須釜小中学校プール完成
45. 5	泉保育所開所	49. 11	消火栓ボックス50か所設置
45. 9	村誘致の東京精工KK操業開始	50. 1	玉川村就業改善センター着工
45. 12	◇ 中根精工KK操業開始	50. 3	玉川村体育館完成
		◇	玉川村公営住宅竜崎団地10戸完成
		50. 9	玉川村就業改善センター完成
		50. 10	電話普通加入区域拡大、自動化開通

歴代三役

村長

代位氏 名 就 任 離 任

1 大木 一夫

昭和三十年四月三十日 昭和三十四年四月二十九日

2 矢部 重寿

昭和三十四年四月三十日 昭和三十八年四月二十九日

3 丹内 栄一

昭和三十八年四月三十日 昭和四十二年四月二十九日

4 大越 力夫

昭和四十二年四月三十日 昭和四十六年四月二十九日

5 小針 千代之助

昭和四十六年四月三十日 昭和五十年四月二十九日

6 小針 千代之助

昭和五十年四月三十日 現在

助役

1 小林 彦右衛門

昭和三十年八月二十二日 昭和三十四年八月二十一日

2 榊 枝安義

昭和三十四年十月一日 昭和三十八年九月三十日

3 大越 力夫

昭和三十九年二月二十一日 昭和四十二年四月一日

4 矢吹 幸夫

昭和四十二年九月八日 昭和四十六年九月七日

5 草野 勇蔵

昭和四十六年九月二十二日 昭和五十年九月二十一日

6 草野 勇蔵

昭和五十年九月二十二日 現在

収入役

1 大竹 保重

昭和三十年九月十二日 昭和三十四年九月十一日

2 大竹 保重

昭和三十四年十月一日 昭和三十八年九月三十日

3 大竹 保重

昭和三十八年十一月一日 昭和四十二年十月三十日

4 大竹 保重
昭和四十二年十一月一日 昭和四十六年十月三十一日

5 近内 寿雄
昭和四十六年十一月一日 昭和五十年十月三十一日

歴代正・副議長

議長

1 湯沢 光市

昭和三十年四月 昭和三十一年三月

2 丹内 栄一

昭和三十一年四月 昭和三十四年三月

2 矢吹 忠次

昭和三十四年四月 昭和三十五年三月

3 尾形 量致

昭和三十五年四月 昭和三十九年三月

4 小林 肇

昭和三十九年四月 昭和四十四年三月

4 小原 忠治

昭和四十四年十二月 昭和四十七年三月

5 小針 保三

昭和四十七年四月 現在

6 小針 保三

昭和四十七年四月 現在

副議長

1 矢吹 忠次

昭和三十年四月 昭和三十一年三月

2 矢吹 忠次

昭和三十一年四月 昭和三十四年三月

2 佐久間 倉雄

昭和三十四年四月 昭和三十五年三月

3 大越 力夫

昭和三十五年四月 昭和三十九年二月

3 小原 忠次

昭和三十九年二月 昭和三十九年三月

4 小原 忠次

昭和三十九年四月 昭和四十四年十二月

4 矢部 勇太郎

昭和四十九年三月

5 草野 勇蔵

昭和四十三年三月 昭和四十六年九月

5 大野 伝吉

昭和四十六年九月 昭和四十七年三月

6 渡辺 政一

昭和四十七年四月 現在

一般会計の推移

(単位 千円)

年 度	入		出		収 支
	予 算 額	決 算 額	予 算 額	決 算 額	
昭和 30	28,148	25,957	28,148	25,862	95
35	50,657	51,925	50,657	49,276	2,649
40	108,368	109,936	108,368	103,786	6,150
45	213,450	217,338	213,450	204,646	12,692
46	296,161	302,312	296,161	286,254	16,058
47	418,593	427,596	418,593	405,250	22,346
48	514,059	522,498	514,059	502,686	19,812
49	632,529	641,852	632,529	616,125	25,727
50	734,110	—	734,110	—	—

体育館・就業改善センターの概要

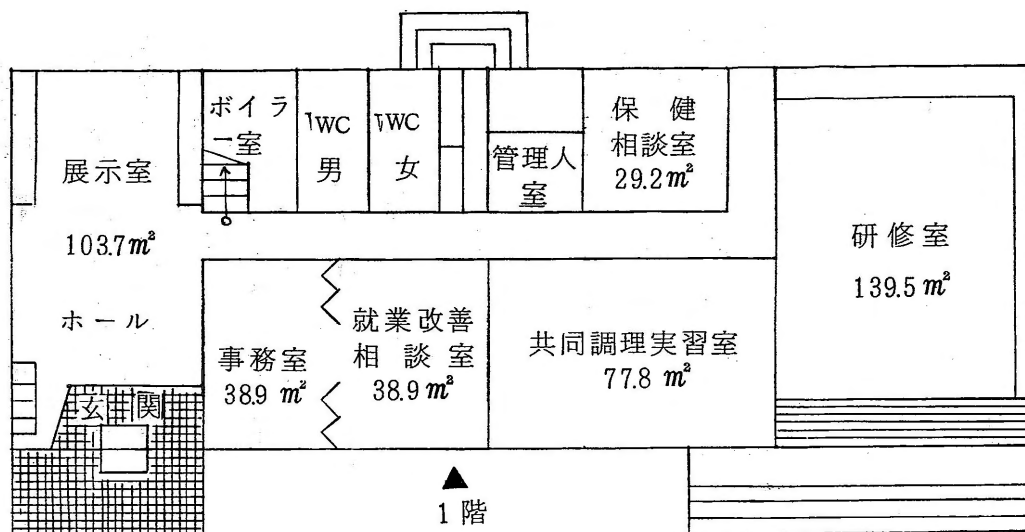
村民体育館は、白河市の鈴木建築設計事務所の設計、石川町の水谷工業株式会社の施工で、工費五千九百一十万円をかけ、総面積千三百平方メートル、鉄骨造り一部二階建の近代的な体育館が昭和五十年三月二十日に完成しました。

また、隣接して建築された就業改善センターは、昭和四十九年、五十年の二年継続事業として、体育館と同じ鈴木建築設計事務所の設計、水谷工業株式会社の請負で建築

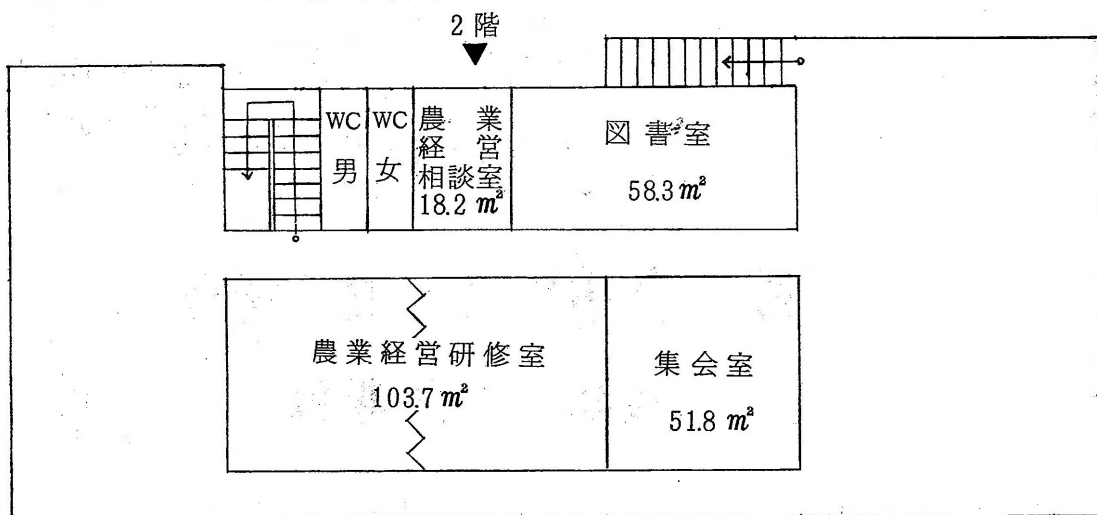
が進められました。

第一期工事は、昭和五十年一月に着工し、基礎工事を行ない、第二期工事は、昭和五十年四月に着工して工事が進められ、九月に完成をみたものであります。

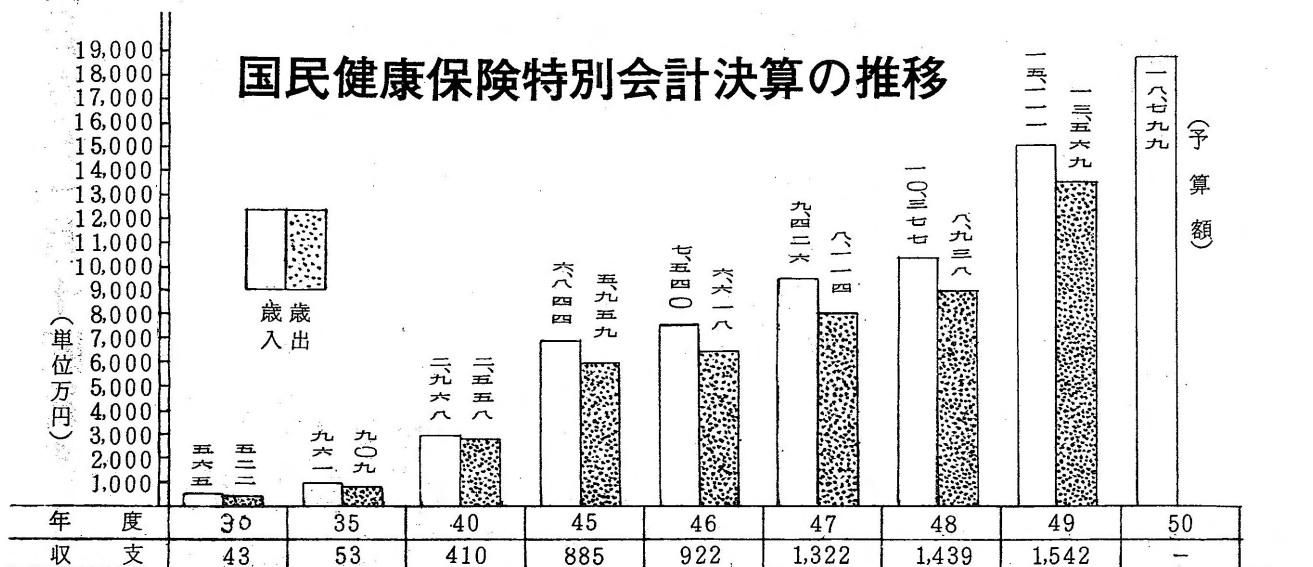
この就業改善センターは、農村地域工業導入特別対策事業による、補助事業で建築され、今後農業、工業の研修の場として利用されます。



就業改善センター平面図



国民健康保険特別会計決算の推移



晴れの受賞者 (三十九名)

合併二十周年記念式典、並びに、体育館、就業改善センター落成式典にあたり、次の方々に感謝状、表彰状が贈られます。

◇感謝状◇

元村長

三代村長 故 丹内 栄一

四代村長 大越 力夫

元収入役

初代、四代 大竹 保重

元議長

四代議長 小原 忠治

元消防団長

四代団長 小針 保三

五代団長 須田 莊助

元農業委員

大和田重正 小針 保三

元福祉活動専門員

小針 安司

元国土調査員

小針 安勝

学校施設寄贈者

大野 雅人 大木 邦夫

保健衛生功労者

矢吹キヨノ

体育館・就業改善センター
地権者

溝井源三郎 吉田 浩

須藤美喜雄 関根 好光

関根 栄 藤田 金二

体育館・就業改善センター

電話は、事業所はもちろん家庭においても、生活になく

てはならないものとなってい

◇表彰状◇

議會議員 (十年以上在職)

小針 保三

渡辺 政一

森 忠寛

民生委員 (八年以上在職)

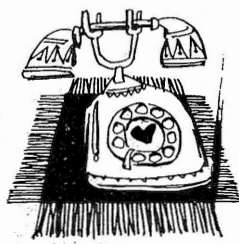
三輪 貞夫

工事請負者 水谷藤之助
設計監督者 鈴木 昭

消防団員 (二十年以上在職) 佐久間倉太
優良納税組合長 尾形 量致
永年勤続職員 (二十年以上在職) 石井 清助
大野金次郎 山崎甲子郎 円谷 信男 小山田正高 佐藤 芳子 久保木徳雄 宗形 友三 伏田 章

電話自動化も完成

昭和四十九年六月から進められておりました、電話の自動化及び増設工事が、十月末日をもって完成しました。
この完成により、全国約四千六百局ヘダイヤル市外通話ができるとともに、八百八十台の新規電話が開通し、市内の電話台数は、千二百六十台となり、一・一八戸、六人に一台の電話が普及したことになります。
電話は、事業所はもちろん家庭においても、生活になく

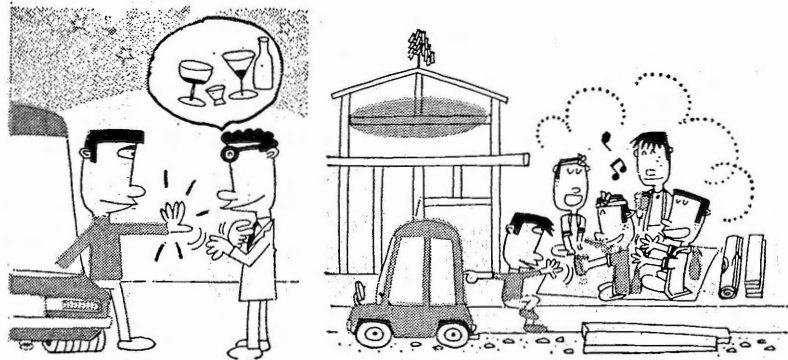


飲酒運転と歩行者の交通事故をなくそう 年末年始の交通事故防止県民運動

十二月十五日から一月十四日まで

今年も早いもので、もう十二月になってしまいました。年末年始は、なにかと気ぜわしく、落つかないものです。また、この時期は、酒を飲む機会が多く、飲酒運転による事故も多くなる時期です。
そこで、
「飲酒運転と歩行者の交通事故をなくそう」をスローガンに、五十年十二月十五日から、五十一年一月十四日まで、年末年始の交通事故防止県民運動が実施されます。
この運動では
1、飲酒運転の絶滅
2、歩行者の事故絶滅
を重点目標として、運動がくりひろげられますが、村内でも最近いたましい交通事故

飲酒運転 やめよう！ やめさせよう！



が、連続して発生していますので、身近な問題として、この機会に考えなおし、「酒を飲んだら運転しない」「運転するなら飲まない、飲ませない」「飲んだ者には運転させない」の三つの運動を推進し、交通事故の無い、明るい年末年始をおくりましょう。

成人おめでとう

百二名が成人

成人に達した若者達の晴れの門出を祝福する、五十一年玉川村成人式は、来年一月十五日（成人の日）に役場会議室で挙行されます。

村内の成人者は、男四十八名、女五十四名の合計百二名で、該当者は、昭和三十年四月二日から三十一年四月一日までに生まれた人です。

なお、玉川村出身者で、本村の成人式に参加希望される方がありましたら、十二月二十日まで玉川村公民館へ申し込んでください。

住民登録されている成人該当者は次のとおりです。

川

小高

矢吹さく子

車田清和

車田ツギ子

国井信子

関根弘和

須藤喜一

須藤美代子

白沢喜美子

佐藤達男

溝井庄吉

溝井一彦

高井節子

高井信一

溝井晴彦

溝井恒夫

溝井定一

小針由美子

小針清信

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

小針針

輸血・血液代金を支給

日本赤十字社では、輸血を受けて血液代金を支払った人に対し、その自己負担分を支給しています。

支給される人は、昭和四十
九年四月一日以降輸血を受け
血液代金を医療機関に支払っ
た人です。

支給額は、血液代金のうち
社会保険各法などの法令によ
って支払われた額を控除した
自己負担分で、支給の申請方
法は次のとおりです。

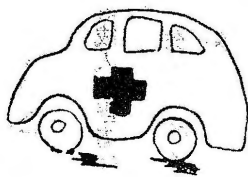
1、申請用紙は、医療機関、日赤血液センター及び日赤福島県支部等に備えてあります。

2. 申請者は必要事項を記入し、輸血を受けた医療機関の証明を受けてから郵送し

てください。

、特定の医療機関では、輸血証明を毎月一括証明して血液センターへ送付するところもありますが、このような医療機関で輸血を受けた人には、後日血液センターから往復はがきで照会が行きますので、返信用はがきに必要事項を記入して返送してください。

(日赤福島県支部より)



薩摩國原
溝井一郎

穂ばらみののはしりの麦生青々し薩摩の国
を吾ら旅行く
桜島噴煙あげし雲黒ければ自動車の中に
吾らざわめく
閑閑哉その裾海に浸しつゝ幾代そびえし
山の雄々しさ
池田湖の大き鰻を見し夜の宿の夢にもあ
らわれ来ぬ
通りがかりの道辺の店によりたかり饅頭
買ふ人多かりき

年賀郵便は

「十二月二十日」までに

年賀はがきの発売が遅れ、表面に「年賀」と朱書を忘れずにお願いします。

皆様は大変ご迷惑をおかけいたしましたことをおわびいたします。

なお、郵便番号は住所の一部ですので、必ずお書き下さ

本年は、特別取扱期間が

となりましたの
で、早目にお出
し下さい。

年賀郵便は、

村内あて、県内

あて、東京あて

その他の四束に

別々に束ねてお

出し下ろす。

また私製はがき

や一般の官製は

がきを 年賀郵

便としてお出し
になる場合は、



拙郎

葛咲いて石工ら憩ふ石切場
阿武隈川霽れゆく雨に出穂おもし
築崩れ瀬の石くぐる川鳥から子
落葉踏む径の狭きに雨後の水
阿武隈川流れのはやく晚稲刈
石刻む音の更けゆき十三夜
入り日なほのこるに急ぐ刈田径
月いてて高稲架を打つ那須の風

社会福祉基金にと寄附

去る十一月二日、村民体育館において、佐藤光春絵さんの民謡雅号免許のつどいが開かれましたが、佐藤光春絵こと、大字・中字・高畔十四の一に住む佐藤ハルイさんは、七十才以上の高令者を無料招待し喜ばれました。

また、これを記念して、社会福祉事業基金にと、三万円を社会福祉協議会に寄附し、関係者から感謝されています。

壽

お誕生おめでとう
ございます

(十一月分の出生届書から)

川	部	出生	世帯主名	続柄
辺	落	児氏名		
須		藤智恵子	久雄	孫

草野智美泰助
須藤かよ子平蔵

中 高 藤 近 林 由 香 浅之助 曾孫
／ 藤 か お り 幸 夫 長 女

南須釜大木吉浩カツミ孫

四 辻
引 大
地 越
明 弘
大 樹
郁 四
代 郎
長 久
男

ご逝去お悔み申し上げます

(十一月分の死亡届書から)

部落 死亡者氏名 年令 世帯主名 続柄
南須釜 大越 一良 (74) 四郎 養父

南須釜 大越一良 (74) 四郎養父